



災害に強い基幹水利施設の完成を目指して

関東農政局両総農業水利事業所
所長 小泉 勝

両総用水事業推進協議会の皆様方には、日頃から国営事業の推進に深いご理解とご協力を賜り、心から厚く御礼を申し上げます。

本事業は、平成5年度の着工以来19年目を迎えておりますが、当協議会をはじめとして両総土地改良区、千葉県など地元関係機関の温かいご理解とご協力を賜り、これまでおおむね順調に事業を推進して参りまして、平成22年度末までの進捗率は約89.4%(事業費ベース)となっております。

さて、今年は3月11日に東日本大震災という未曾有の災害が発生いたしました。当両総用水施設におきましても、東部幹線水路や水資源機構との共用施設であります北部幹線水路を中心に多数の損傷を被りました。このため、私ども国営事業所におきまして直ちに災害対策本部を設置し、受益農家の皆様方に何とか例年とそれ程遅れずに作付けをしていただきたいとの思いから、土地改良区や千葉県ご当局、水資源機構等とご相談をさせていただき、全域通水に必要な損傷箇所の復旧工事を国営事業の中で対応させていただくことと致しました。この結果、4月15日には、とりあえず管内全域での通水が可能になり、28日には北部幹線のバイパス水路も復旧したことから全量通水が可能となりました。

また、一方では山武市や横芝光町を中心に津波による農地への冠水面積も547haに及びました。こちらの方も、千葉県ご当局の寛大なお取り計らいと関係土地改良区のご尽力により、3月30日から除塩作業に入り、一ヶ月後の5月2日から植え付けの開始が可能となりました。さらに、7月からは電力の使用制限への対応と節水などで、農家の皆様方にはこれまでに経験したことのないご苦勞をおかけしたところです。

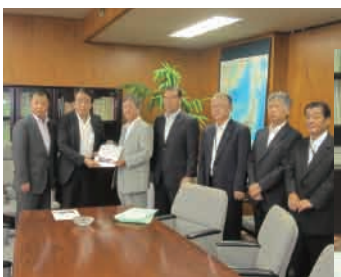
しかし、お陰様で、応急工事を行った幹線水路等もかんがい期間中問題なく配水でき、8月23日には無事今年の送水を停止していただきました。そして、9月中旬までには管内全域で無事収穫作業を終えていただき、また、心配しておりました放射性物質も検出されず、おおむね平年並みの作柄と伺っておりまして、改めて、地元関係機関の皆様のご尽力と受益農家各位のご理解、ご協力に対しまして、敬意を表する次第でございます。

なお、被災した施設のうち、春に復旧できなかった損傷箇所につきましては、現在千葉県や土地改良区の方で、災害復旧事業として整備をさせていただいておりますし、津波による冠水被害を受けられた山武市、横芝光町、九十九里町の農地につきましては、来年春の営農に向けまして、もう一度、除塩作業等のご努力をお願いできればと思っております。

次に、平成23年度の国営事業の実施状況についてでございますが、昨年度末に措置されました予備費、補正予算そして本年度当初予算をもちまして、5月中旬から第1導水路の護岸工事や栗山川統合機場の導水路工事を皮切りに、おおむね予定どおり進めさせていただいております、現在管内の各所で本格的な工事に着手しております。関係市町村や土地改良区の皆様方には、またそれぞれの地元調整等で何かとご支援、ご協力を頂戴いたしますが、よろしく御願ひ申し上げます。

むすびに、H24年度予算の概算要求につきましては、7月から8月にかけて当推進協議会や両総土地改良区の皆様から熱意ある要請活動をしていただくなど温かいお力添えをいただきまして、事業主体としてもたいへん心強く、また深く感謝申し上げますところでございます。お陰様で、9月末に公表されました概算要求では、農林水産予算総額で23,293億円(対前年比102.6%)のうち、農業農村整備事業の関係では通常予算2,222億円(104.4%)に加えて復興枠として477億円の要求となっており、当両総地区については36億円の要求が認められております。これから年末の予算編成に向けて、まだまだ予断を許さないところではございますが、自然災害に強い水利施設の整備と計画的な事業完了に向けて最善を尽くして参りますので、引き続き会員の皆様方のご支援とお力添えを重ねてよろしくお願い申し上げます。

農林水産政務三役及び与党幹事長へ要望活動！！



副大臣室にて



国会内民主党応接室にて

去る8月2日、志賀会長(東金市長)、林副会長(白子町長)が、農林水産政務三役及び与党幹事長へ、国営かんがい排水事業「両総地区」の完成に向けた予算確保について、要望活動を行いました。農林水産省では筒井農林水産副大臣へ、党本部では米長陳情要請対応本部副本部長へ直接要望書を手渡しました。